

## 近現代史(21)「アジア諸地域の動揺① ～西アジア情勢～」

### 【オスマン帝国支配の動揺】

(1)16世紀…オスマン帝国の領土拡大とポルトガル人のインド洋海域侵入

(2)17世紀

- ①イギリス東インド会社 ペルシア湾周辺の[1. \_\_\_\_\_]に商館を設置  
 ②イギリス東インド会社 サファヴィー朝と協力しポルトガル勢力を[2. \_\_\_\_\_]から追放(1622)  
 ③[3. \_\_\_\_\_]失敗(1683)→[4. \_\_\_\_\_](1699)  
 ↳オーストリアにハンガリー・トランシルヴァニア・スロヴェニア・クロアチアを割譲

(3)18世紀 ☆黒海北岸がロシアに奪われる

- ①[5. \_\_\_\_\_] → アゾフを占領。後ロシア領となる(1739)  
 ②[6. \_\_\_\_\_](1774) → アゾフ海東岸・黒海北岸地方をロシアに割譲。  
 ③エカチェリーナ2世 → オスマン帝国の保護国[7. \_\_\_\_\_]併合(1783)

(4)オスマン帝国の衰退とナショナリズムの昂揚

オスマン帝国の衰退 → アラブ人ナショナリズム → [8. \_\_\_\_\_]

### 【アラブ民族のめざめ】

(1)アラビア半島 ～[9. \_\_\_\_\_]の運動～

- ①[10. \_\_\_\_\_]がイラン人やトルコ人がもたらした神秘主義と聖者崇拜によってイスラーム教が墮落したとし、原始イスラーム教への回帰を説く。トルコ支配に対するアラブ民族のめざめとなる。  
 ②ワッハーブ王国の建国 …中央アラビアの豪族[11. \_\_\_\_\_]と結んで建国(都；リヤド)

(2)シリア

○19世紀初め、アラブのキリスト教徒知識人の間に[12. \_\_\_\_\_]が起こる。  
 →言語を通じてアラブ民族意識を高め、19世紀末以降に展開するアラブ民族主義運動への道を開く。

(3)エジプト

①初めにナポレオンありき

- ・1798年、ナポレオンの[13. \_\_\_\_\_] → イギリス支援でオスマン帝国の主権回復  
 ↳混乱に乗じて[14. \_\_\_\_\_]がエジプト総督。オスマン帝国追認(1805)

②ムハンマド=アリーのエジプト近代化政策

(a)内政

- ・旧勢力の[15. \_\_\_\_\_]をカイロの城塞に招きよせて虐殺。
- ・近代的な陸海軍の創設、造船所・官営工場・印刷所の建築、教育制度の改革

(b)外政

- ・[16. \_\_\_\_\_]滅ぼす(1818,のち復活) ← オスマン帝国の要請によるもの
- ・エジプト=トルコ戦争 (フランス・エジプト VS トルコ・ロシア) ← イギリスは干渉

第一次エジプト=トルコ戦争(1831～33)

シリア領有を求めてムハンマド=アリーがオスマン帝国に宣戦。ロシアがオスマン帝国を援助したが、イギリスの干渉によりエジプトはシリア統治権を得る。

[17. \_\_\_\_\_](1833)

- ・ロシア以外の外国軍艦のボスフォラス・ダーダネルス両海峡の航行禁止

第二次エジプト=トルコ戦争(1839～40)

シリア世襲を求めるムハンマド=アリーに対してオスマン帝国が攻撃。ムハンマド=アリーはフランスの援助で圧勝したがイギリスが干渉してシリア世襲は放棄。

[18. \_\_\_\_\_]・ロンドン4国条約(1840)

- 海峡協定(1841)…ウンキヤル=スケレスシ条約破棄。  
外国軍艦の両海峡の航行禁止

### ③エジプトの保護国化

#### (a)外国支配

- ・急速な近代化と戦争によりエジプトは[19. \_\_\_\_\_]となる。1860年代から英仏の財政管理下に置かれる。
- ・[20. \_\_\_\_\_]の持ち株をイギリスが買収
  - ・1869年、フランス人[21. \_\_\_\_\_]がスエズ運河を建設。1875年、財政難に陥ったエジプトがスエズ運河の持ち株をイギリスに売却。イギリスは保守党のデズレリがユダヤ人財閥の[22. \_\_\_\_\_]の資金力を利用。これ以後、イギリスのエジプトに対する介入が深まる。(※フランスは普仏戦争の敗北により疲弊中)

#### (b)民族運動

- ・[23. \_\_\_\_\_](1881~82)
  - ・エジプトに対する外国支配の強化に対して、軍人ウラービーの指導でおきた武装蜂起。「エジプト人のためのエジプト」をスローガンに掲げて戦い、エジプト民族運動の出発点となる。
  - ・イギリスが単独出兵して鎮圧、以後[24. \_\_\_\_\_]となる。
    - 1914年の第一次世界大戦でオスマン帝国がイギリスの敵国となったのでエジプトは完全保護国化。

### 【オスマン帝国の改革】

#### (1)19世紀初めの改革

- ①[25. \_\_\_\_\_]…西欧式新軍隊ニザーム=ジェディットを創設するが、イエニチェリにより殺害
- ②[26. \_\_\_\_\_]…イエニチェリ軍団の解散に成功しトルコ近代化を行うが対外的にはギリシャ独立戦争とムハンマド=アリーとの戦いに苦戦。

#### (2)[27. \_\_\_\_\_]

- [28. \_\_\_\_\_](恩恵改革)：司法・行政・財政・軍事の徹底した西欧化改革
- ・歴史的意義…[29. \_\_\_\_\_](1839)により全臣民の帝国内における法的な平等・公平な課税を保障。帝国は伝統的なイスラム国家から、法治主義に基づく近代国家へと体制を一新
  - ・影響と結果…欧州工業製品が流入し、土着産業は没落。外国資本への従属が進む。

#### (3)[30. \_\_\_\_\_]

- ・クリミア戦争後、[31. \_\_\_\_\_]を宰相として憲法を発布したが露土戦争の勃発を契機に憲法を停止。皇帝専制体制を復活。領内の民族運動と列強の侵略に対処できず青年トルコ革命後に廃位された。
- ※[32. \_\_\_\_\_](1876)：アジア最初の憲法。二院制議会と責任内閣制をとる。
- ※露土戦争敗北後、サン=ステファノ条約 ⇒ [33. \_\_\_\_\_](1878)により領土を一举に喪失
  - ルーマニア・セルビア・モンテネグロは独立。ブルガリアはロシア帝国内の自治国。キプロスは英領。ボスニア・ヘルツェゴビナはオーストリアの統治権下に入る。

### 【イラン・アフガニスタンの動向】

#### (1)イラン情勢

- ①[34. \_\_\_\_\_]：サファヴィー朝滅亡後の混乱状態のイランをアーガー=ムハンマドが統一(都；テヘラン)
- ②[35. \_\_\_\_\_](1828)：カフカスをめぐるロシアとの戦いに敗れて調印。治外法権を認めて東アルメニアを割譲。
- ③[36. \_\_\_\_\_](1848-50)：封建的体制と外国勢力への屈従に反対したイラン民衆の反乱。

#### (2)アフガニスタン情勢

- ①[37. \_\_\_\_\_]…ロシア支援下のカジャール朝が侵攻。ロシアの南下を怖れるイギリス支援でイランから独立
- ②[38. \_\_\_\_\_]…イギリスがロシアの南下に対抗して行った3回にわたる侵略戦争。第1回ではイギリスが完敗。第2回で保護国化に成功した。だが第3回目では独立を認めた。